



Sun SPARC® Enterprise T2000 サーバ プロダクトノート

Sun Microsystems, Inc.
www.sun.com

Part No. 820-1312-10
2007 年 5 月, Revision A

コメントの送付: <http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

Copyright 2007 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. All rights reserved.

富士通株式会社は、本製品の一部に対して技術提供および調査を行いました。

米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします) および富士通株式会社は、それぞれ本書に記述されている製品および技術に関する知的所有権を所有または管理しています。これらの製品、技術、および本書は、著作権法、特許権などの知的所有権に関する法律および国際条約により保護されています。これらの製品、技術、および本書に対して米国 Sun Microsystems 社および富士通株式会社がある知的所有権には、<http://www.sun.com/patents> に掲載されているひとつまたは複数の米国特許、および米国ならびにその他の国におけるひとつまたは複数の特許または出願中の特許が含まれています。

本書およびそれに付随する製品および技術は著作権法により保護されており、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。富士通株式会社およびサン・マイクロシステムズ株式会社の書面による事前の許可なく、このような製品または技術および本書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。本書の提供は、明示的であるか黙示的であるかを問わず、本製品またはそれに付随する技術に関するいかなる権利またはライセンスを付与するものではありません。本書は、富士通株式会社または米国 Sun Microsystems 社の一部、あるいはそのいずれかの関連会社のいかなる種類の義務を含むものでも示すものでもありません。

本書および本書に記述されている製品および技術には、ソフトウェアおよびフォント技術を含む第三者の知的財産が含まれている場合があります。これらの知的財産は、著作権法により保護されているか、または提供者から富士通株式会社および/または米国 Sun Microsystems 社へライセンスが付与されているか、あるいはその両方です。

GPL または LGPL が適用されたソースコードの複製は、GPL または LGPL の規約に従い、該当する場合に、一般ユーザーからのお申し込みに応じて入手可能です。富士通株式会社または米国 Sun Microsystems 社にお問い合わせください。

この配布には、第三者が開発した構成要素が含まれている可能性があります。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company Limited が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。

本製品は、株式会社モリサワからライセンス供与されたリュウミン L-KL (Ryumin-Light) および中ゴシック BBB (GothicBBB-Medium) のフォント・データを含んでいます。

本製品に含まれる HG 明朝 L と HG ゴシック B は、株式会社リコーがリョービマジクス株式会社からライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。平成明朝体 W3 は、株式会社リコーが財団法人 日本規格協会 文字フォント開発・普及センターからライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。また、HG 明朝 L と HG ゴシック B の補助漢字部分は、平成明朝体 W3 の補助漢字を使用しています。なお、フォントとして無断複製することは禁止されています。

Sun, Sun Microsystems, Java, Netra, Sun StorEdge, SPARC Enterprise, docs.sun.com, OpenBoot, SunVTS, Sun Fire, SunSolve, CoolThreads, J2EE は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems 社の商標もしくは登録商標です。サンロゴマークおよび Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。

富士通および富士通のロゴマークは、富士通株式会社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャーに基づくものです。

SPARC64 は、Fujitsu Microelectronics, Inc. 社および富士通株式会社が米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の商標です。

OPENLOOK、OpenBoot、JLE は、サン・マイクロシステムズ株式会社の登録商標です。

ATOK は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。ATOK8 は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、ATOK8 にかかる著作権その他の権利は、すべて株式会社ジャストシステムに帰属します。ATOK Server/ATOK12 は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、ATOK Server/ATOK12 にかかる著作権その他の権利は、株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。

本書で参照されている製品やサービスに関しては、該当する会社または組織に直接お問い合わせください。

OPEN LOOK および Sun™ Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザーおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザー・インタフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

United States Government Rights - Commercial use. U.S. Government users are subject to the standard government user license agreements of Sun Microsystems, Inc. and Fujitsu Limited and the applicable provisions of the FAR and its supplements.

免責条項: 本書または本書に記述されている製品や技術に関して富士通株式会社、米国 Sun Microsystems 社、またはそのいずれかの関連会社が行う保証は、製品または技術の提供に適用されるライセンス契約で明示的に規定されている保証に限り、このような契約で明示的に規定された保証を除き、富士通株式会社、米国 Sun Microsystems 社、およびそのいずれかの関連会社は、製品、技術、または本書に関して、明示、黙示を問わず、いかなる種類の保証も行いません。これらの製品、技術、または本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われぬものとします。このような契約で明示的に規定されていないかぎり、富士通株式会社、米国 Sun Microsystems 社、またはそのいずれかの関連会社は、いかなる法理論のものも第三者に対しても、その収益の損失、有用性またはデータに関する損失、あるいは業務の中断について、あるいは間接的損害、特別損害、付随的損害、または結果的損害について、そのような損害の可能性が示唆されていた場合であっても、適用される法律が許容する範囲内、いかなる責任も負いません。

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われぬものとします。

本書には、技術的な誤りまたは誤植のある可能性があります。また、本書に記載された情報には、定期的に変更が行われ、かかる変更は本書の最新版に反映されます。さらに、米国サンまたは日本サンは、本書に記載された製品またはプログラムを、予告なく改良または変更することがあります。

本製品が、外国為替および外国貿易管理法 (外為法) に定められる戦略物資等 (貨物または役務) に該当する場合、本製品を輸出または日本国外へ持ち出す際には、サン・マイクロシステムズ株式会社の事前の書面による承諾を得ることのほか、外為法および関連法規に基づく輸出手続き、また場合によっては、米国商務省または米国所轄官庁の許可を得ることが必要です。

原典:	<i>Sun SPARC Enterprise T2000 Server Product Notes</i> Part No.: 819-7992-10 Revision A
------------	---



Adobe PostScript

目次

- 1. Sun SPARC Enterprise T2000 サーバに関する重要な情報 1
 - SPARC Enterprise T2000 サーバのサポート 1
 - 技術サポート 1
 - ソフトウェアリソース 2
 - マニュアルのダウンロード 2
 - サポートされているファームウェアおよびソフトウェアのバージョン 2
 - システムファームウェアの更新 3
 - 必須パッチ 3
 - オプションカード用のパッチ 3
 - 既知の問題と回避方法 4
 - /etc/system ファイルの必須エントリ 4
 - ▼ /etc/system ファイルの必須エントリを確認および作成する 4
 - 一般的な機能に関する問題 5
 - SunVTS CPU テストを実行すると、ウォッチドッグタイムアウトが発生して停止する (CR 6498483) 5
 - Solaris 予測的自己修復 (PSH) 機能 5
 - サポートされている Sun Explorer ユーティリティのバージョン 5
 - SPARC Enterprise T2000 の POST で検出された修正可能なメモリーエラーが誤解を招く場合がある (CR 6479408) 6
 - Solaris OS の JumpStart インストールの実行後に誤った障害メッセージが表示される 6

▼ JumpStart インストールの実行後にシステムを設定する	7
特定の問題と回避方法	9
マニュアルの正誤情報	13
ALOM CMT ガイドでの日付の同期に関する記載内容の誤り	13

Sun SPARC Enterprise T2000 サーバに関する重要な情報

本書では、SPARC Enterprise T2000 サーバに関する重要な最新情報について説明します。

このマニュアルは、次のセクションで構成されています。

- 1 ページの「SPARC Enterprise T2000 サーバのサポート」
- 2 ページの「サポートされているファームウェアおよびソフトウェアのバージョン」
- 3 ページの「必須パッチ」
- 4 ページの「既知の問題と回避方法」

SPARC Enterprise T2000 サーバのサポート

このセクションでは、技術サポート、ソフトウェア、およびマニュアルの入手先について説明します。

技術サポート

SPARC Enterprise T2000 サーバのマニュアルに記載されていない技術的な質問または問題がある場合は、購入先に問い合わせてください。米国またはカナダのユーザーの場合は、1-800-USA-4SUN (1-800-872-4786) に問い合わせてください。

ソフトウェアリソース

SPARC Enterprise T2000 サーバには、Solaris™ オペレーティングシステムおよび Sun Java™ Enterprise System ソフトウェアがプリインストールされています。

ソフトウェアの再読み込みが必要になった場合は、次の Web サイトにアクセスしてください。ソフトウェアのダウンロード方法が記載されています。

<http://www.sun.com/software/preinstall/>

マニュアルのダウンロード

SPARC Enterprise T2000 サーバの設置、管理、および使用に関する手順は、SPARC Enterprise T2000 サーバのマニュアルセットに記載されています。次の Web サイトから、マニュアルセット全体をダウンロードして入手できます。

<http://jp.sun.com/documentation/>

注 – 本書に記載されている情報は、SPARC Enterprise T2000 のマニュアルセットの情報よりも優先されます。

サポートされているファームウェアおよびソフトウェアのバージョン

このリリースの SPARC Enterprise T2000 サーバでサポートされるファームウェアおよびソフトウェアの最小バージョンは、次のとおりです。

- Solaris 10 11/06 オペレーティングシステム (OS)
- Sun Java Enterprise System ソフトウェア (Java ES 2005Q4)
- システムファームウェア 6.3.5 (Advanced Lights Out Manager (ALOM) CMT 1.3.5 ソフトウェアおよび OpenBoot™ 4.25.3 ファームウェアを含む)。

システムファームウェアの更新

ファームウェアの更新は、SunSolveSM (sunsolve.sun.com) からパッチリリースを介して入手できます。システムファームウェアを更新する方法の詳細は、『Sun SPARC Enterprise T2000 サーバ インストールガイド』の付録 A を参照してください。flashupdate コマンドの詳細は、『Advanced Lights Out Management (ALOM) CMT v1.x ガイド』を参照してください。

注 – システムファームウェアを更新すると、ALOM CMT ソフトウェアおよび OpenBoot ファームウェアも更新されます。

必須パッチ

現時点では、SPARC Enterprise T2000 サーバに対する必須パッチはありません。

パッチが必要な場合は、<http://www.sun.com/sunsolve> から入手できます。

注 – 購入先に問い合わせる前に、すべての必須パッチがサーバにインストールされていることを確認してください。これらのパッチのインストールに加えて、SunSolve Web サイトを定期的にチェックして、利用可能な新しいパッチがないかどうかを確認してください。

オプションカード用のパッチ

サーバにオプションカードを追加する場合は、それぞれのカードに関するマニュアルおよび README ファイルを参照して、追加のパッチが必要かどうかを確認してください。

既知の問題と回避方法

このセクションでは、このリリースの SPARC Enterprise T2000 サーバに存在する既知の問題について説明します。

/etc/system ファイルの必須エン트리

このセクションでは、/etc/system ファイルの必須エン 트리について説明します。必須エン 트리は、サーバの最適な機能性を確保するためにこのファイルに指定されている必要があります。

/etc/system ファイルに次のエン 트리를指定します。

```
set pcie:pcie_aer_ce_mask=0x2001
```

▼ /etc/system ファイルの必須エン 트리를確認および作成する

この手順は、次の場合に実行してください。

- サーバを配備する前に、エン 트리が存在することを確認する。
- Solaris OS をインストールまたは更新したあとにエン 트리를作成する。

1. スーパーユーザーとしてログインします。
2. /etc/system ファイルに必須の行が存在するかどうかを確認します。

```
# more /etc/system
*ident  "@(#)system      1.18 05/06/27 SMI" /* SVR4 1.5 */
*
* SYSTEM SPECIFICATION FILE
.
.
.
set pcie:pcie_aer_ce_mask=0x2001
.
```

3. ファイルに必須エン 트리が存在しない場合は追加します。
 - a. エディタを使用して /etc/system ファイルを編集し、両方の行を追加します。
 - b. サーバを再起動します。

一般的な機能に関する問題

このリリースには、次に示す機能に関する問題があります。

SunVTS CPU テストを実行すると、ウォッチドッグタイムアウトが発生して停止する (CR 6498483)

Coolthreads サーバで SunVTS CPU テストを実行中に、Solaris のウォッチドッグタイムアウトが発生し、システムが停止しました。

回避方法: SunVTS を実行する間は、ALOM CMT の `sys_autorestart` 変数を `none` に設定してください。この設定により、ALOM CMT は警告メッセージを表示しますが、サーバをリセットすることはありません。

Solaris 予測的自己修復 (PSH) 機能

Solaris PSH の実装は、このリリースの製品では完全には実現されません。メッセージ ID FMD-8000-OW の PSH メッセージが発生した場合は、次の Web サイトの説明を参照してください。

<http://www.sun.com/msg/FMD-8000-OW>

サポートされている Sun Explorer ユーティリティーのバージョン

SPARC Enterprise T2000 サーバは、Sun Explorer 5.7 以降のデータ収集ユーティリティーではサポートされますが、これより前のリリースのユーティリティーではサポートされません。プリインストールされた Java ES パッケージから Sun Cluster または Sun Net Connect ソフトウェアをインストールすると、前のバージョンのユーティリティーがシステムに自動的にインストールされます。Java ES ソフトウェアのいずれかをインストールしたあとに、次のように入力して、使用しているシステムに前のバージョンの Sun Explorer 製品がインストールされていないかどうかを確認してください。

```
# pkginfo -l SUNWexpl0
```

前のバージョンが存在する場合は、それをアンインストールして version 5.7 以降をインストールしてください。version 5.7 をダウンロードするには、次の Web サイトにアクセスしてください。

<http://www.sun.com/sunsolve>

SPARC Enterprise T2000 の POST で検出された修正可能なメモリーエラーが誤解を招く場合がある (CR 6479408)

サポートされていないメモリー構成に関する POST のエラーメッセージが、誤解を招く場合があります。ランク 0 (ゼロ) にメモリーがすべて取り付けられている場合は、次のメッセージを無視しても問題ありません。

```
ERROR: Using unsupported memory configuration
```

Solaris OS の JumpStart インストールの実行後に誤った障害メッセージが表示される

Sun SPARC Enterprise T2000 サーバで Solaris JumpStart™ インストールを実行した場合、起動時にサーバが誤った PSH 障害メッセージを表示します。この状況を解決するには、SPARC Enterprise T2000 の必須パッチをインストールし、`/etc/system` ファイルを変更してください。さらに、PSH および ALOM CMT の障害ログをクリアして、誤ったメッセージが再度報告されないようにすることをお勧めします。これらの手順は、7 ページの「JumpStart インストールの実行後にシステムを設定する」で説明します。

起動時の誤った障害メッセージの例:

```
SUNW-MSG-ID: SUN4-8000-0Y, TYPE: Fault, VER: 1, SEVERITY: Critical
EVENT-TIME: Fri Jan 27 22:17:36 GMT 2006
PLATFORM: SUNW,SPARC-Enterprise-T2000, CSN: -, HOSTNAME: xx
SOURCE: eft, REV: 1.13
EVENT-ID: d79b51d1-aca0-c786-aa50-c8f35ea0fba3
DESC: A problem was detected in the PCI-Express subsystem.
Refer to http://sun.com/msg/SUN4-8000-0Y for more information.
AUTO-RESPONSE: One or more device instances may be disabled
IMPACT: Loss of services provided by the device instances
associated with this fault
REC-ACTION: Schedule a repair procedure to replace the affected
device. Use fmdump -v -u EVENT_ID to identify the device or contact
Sun for support.
```

fmdump コマンドを使用してメッセージを表示する例:

```
# fmdump -v -u d79b51d1-aca0-c786-aa50-c8f35ea0fba3
TIME UUID SUNW-MSG-ID
Jan 27 22:01:58.8757 d79b51d1-aca0-c786-aa50-c8f35ea0fba3 SUN4-
8000-0Y 100% fault.io.fire.asic
FRU: hc://product-id=SUNW,SPARC-Enterprise-T2000/component=IOBD
rsrc: hc:///ioboard=0/hostbridge=0/pciexrc=0
Jan 27 22:17:36.5980 d79b51d1-aca0-c786-aa50-c8f35ea0fba3 SUN4-
8000-0Y
100% fault.io.fire.asic
FRU: hc://product-id=SUNW,SPARC-Enterprise-T2000/component=IOBD
rsrc: hc:///ioboard=0/hostbridge=0/pciexrc=0
```

▼ JumpStart インストールの実行後にシステムを設定する

この手順では、誤った障害メッセージが報告されないように、JumpStart インストール後に SPARC Enterprise T2000 サーバを設定する方法について説明します。

1. サーバに必須パッチをインストールします。
2. /etc/system ファイルを更新します。
4 ページの「/etc/system ファイルの必須エントリ」を参照してください。
3. fmadm faulty コマンドを使用して、誤った障害の UUID の一覧を表示します。

```
# fmadm faulty
```

4. 前述の手順で一覧に表示された各障害をクリアーします。

```
# fmadm repair d79b51d1-aca0-c786-aa50-c8f35ea0fba3
```

5. 次の例のように入力して、永続ログをクリアーします。

```
# cd /var/fm/fmd
# rm e* f* c*/eft/* r*/*
```

6. 次のように入力して、Solaris PSH モジュールをリセットします。

```
# fmadm reset cpumem-diagnosis
# fmadm reset cpumem-retire
# fmadm reset eft
# fmadm reset io-retire
```

7. ALOM CMT プロンプトで障害をリセットします。

- a. ALOM CMT の `sc>` プロンプトにアクセスします。

手順については、『Advanced Lights Out Management (ALOM) CMT v1.x ガイド』を参照してください。

- b. `showfaults -v` コマンドを実行して、障害の UUID を参照します。

```
sc> showfaults -v
ID Time          FRU                               Fault
0 Jan 27 22:01 hc://product-id=SUNW,SPARC-Enterprise-
T2000/component=IOBD Host detected fault, MSGID:
SUN4-8000-0Y UUID: d79b51d1-aca0-c786-aa50-c8f35ea0fba3
```

- c. `showfaults` の出力に表示された UUID を指定して、`clearfault` コマンドを実行します。

```
sc> clearfault d79b51d1-aca0-c786-aa50-c8f35ea0fba3
Clearing fault from all indicted FRUs...
Fault cleared.
```

8. 引き続き障害が報告される場合は、サーバのコンポーネントに障害が発生している可能性があります。診断手順については、『Sun SPARC Enterprise T2000 サーバ サービスマニュアル』を参照してください。

特定の問題と回避方法

表 1 に、既知の問題とそれに割り当てられている変更要求 ID (CR ID) を示します。変更要求 ID は以前バグ ID と呼ばれていました。この表には、これらの問題に対して実行可能な回避方法も示します。

これらの CR の詳細は、SunSolve Web サイトを参照してください。

表 1 SPARC Enterprise T2000 サーバの特定の問題 (1 / 4)

CR ID	説明	回避方法
6310384	サーバにキーボードが接続されていない場合でも、SunVTS USB キーボードテスト (usbtest) が、キーボードが存在すると報告する。	usbtest を実行しないでください。
6312364	ALOM CMT の console コマンドを使用してホストにアクセスすると、コンソールの応答が遅くなる場合がある。	最適な応答性を確保するには、ホストが OS の起動を完了した直後にホストのネットワークインタフェースを介してホストにアクセスしてください。
6314590	ALOM CMT の break および go コマンドを実行すると、システムがハングアップする場合がある。	コンソールがハングアップした場合は、システムをリセットしてください。
6315238	AC 電源を入れ直すと、次のメッセージが誤って表示される。 Preceding SC reset due to watchdog	このメッセージは無視してください。
6317382	ok プロンプトで、認識できないコマンドまたは単語を入力すると、システムによって次のエラーが誤って返される。 ERROR: Last Trap また、サーバがハングアップする場合もある。	この誤ったエラーメッセージは無視してください。サーバがハングアップした場合は、システムコンソールからサーバをリセットしてください。
6318208	POST リセット後など、システムをリセットするたびに、次のメッセージが表示される場合がある。 Host system has shut down	このメッセージは無視してください。システムは問題なくリセットされ、OBP の ok プロンプトが表示されます。
6325271	コンソール履歴の boot ログと run ログが同じになる。	現時点では、この問題に関する回避方法はありません。
6336040	障害が発生した DIMM が asr データベースからクリアされたあとで、ALOM CMT が適切に再起動しない場合があり、次のエラーメッセージが返される。 No valid MEMORY configuration	clearasrdb コマンドの実行後に、10 秒経過してから resetsc コマンドを実行してください。DIMM に関連する障害をクリアする方法については、『Sun SPARC Enterprise T2000 サーバ サービスマニュアル』を参照してください。

表 1 SPARC Enterprise T2000 サーバの特定の問題 (2 / 4)

CR ID	説明	回避方法
6338365	Sun Net Connect 3.2.2 ソフトウェアが、SPARC Enterprise T2000 サーバでの環境警告を監視しない。	環境エラーが発生したことを示す通知を受け取るには、ALOM CMT の mgt_mailalert 機能を使用して、イベントの発生時に ALOM CMT から電子メールが送信されるように設定してください。 サーバの環境状態が正常であるかどうかを確認するには、ALOM CMT にログオンして showfaults コマンドを実行してください。 サーバで発生したすべてのイベントの履歴を参照するには、ALOM CMT にログオンして showlogs コマンドを実行してください。
6338962	sync コマンドを使用したとき、システムがパニック状態になりハングアップする場合がある。	サーバがハングアップした場合は、システムコンソールからサーバをリセットしてください。
6341045	サーバがトラップハンドラを実行している間に CPU またはメモリーに障害が発生すると、システムは CPU またはメモリーの障害メッセージを返す代わりに、誤ったトラップを使用してパニック状態になる場合がある。このような場合、メモリーの消し込みは実行されない。	サーバをリセットし、showfaults コマンドを使用して、障害の可能性がないかサーバを確認してください。
6343294	Solaris PSH エラーが検出され報告されたとき、正しいメッセージに加えて、次の誤ったメッセージが報告される場合がある。 msg = warning: bad proto frame implies corrupt/lost msg(s)	この誤ったメッセージは無視してください。
6342192	サーバが、ALOM CMT シリアル管理ポートでの着呼に応答しない。	モデムを ALOM CMT シリアルポートに接続しないでください。
6347456	ECC エラー監視 (errmon) オプションが使用可能に設定されていると、SunVTS メモリーテストで、まれに、次のような警告メッセージがログに記録される場合がある。 WARNING: software error encountered while processing /ar/fm/fmd/errlog Additional-Information: end-offile reached	errmon オプションを使用可能にしないでください。errmon オプションは、デフォルトで使用不可になっています。
6344888	システムで、次のメッセージ ID が付いた、誤った障害メッセージが生成される場合がある。 SUN4-8000-ER SUN4-8000-OY SUN4-8000-75 SUN4-8000-D4	/etc/system ファイルに次の行が存在することを確認してください。 set pcie:pcie_aer_ce_mask=0x2001 4 ページの「/etc/system ファイルの必須エントリ」を参照してください。

表 1 SPARC Enterprise T2000 サーバの特定の問題 (3 / 4)

CR ID	説明	回避方法
6368136	ALOM の <code>showlogs -p p</code> コマンドが多数のデータを表示して、ALOM CLI の動作を遅くする場合があります。	永続ログを表示するには、このコマンドではなく、次のコマンドを使用してください。 <code>showlogs -e x</code> ここで、 <code>x</code> には、表示する最新ログエントリの行数を指定します。
6368944	ok プロンプトで、114 文字以下のテキストしか入力できない。	ok プロンプトでは、114 文字を超えるテキストを入力しないでください。
6380987	シャーシの背面にあるアースピンにアース線を接続すると、このアース接続を外さないかぎり背面の送風機を交換できなくなる。	背面の送風機を交換する必要があるし、アース線が接続されている場合には、アース線を外して送風機を取り扱ってください。
6381064	Sun Type-7 キーボードが正面の USB ポートのいずれかに接続されていると、システムが起動できない。	Type-7 キーボードを、正面の USB ポートに接続しないでください。代わりに、別の種類のキーボードを使用するか、または背面の USB ポートを使用してください。
6408619	ネットワーク上の Linux の起動用 TFTP サーバからサーバを起動できない。	Solaris OS の起動用 TFTP サーバを使用してください。
なし	X オプションおよび交換可能なハードドライブが、電子的なディスクラベルを持たない場合がある。	サーバでハードドライブの交換または追加を行う予定がある場合は、そのドライブが電子的なディスクラベルを持たない場合があるため、Format ユーティリティを実行してドライブにラベルを付けます。ドライブにラベルを付ける手順については、『Labeling Unlabeled Hard Drives』(Part No. 819-3805) というタイトルのマニュアルに記載されています。このマニュアルは、Sun SPARC Enterprise T2000 サーバのマニュアルとともに http://www.sun.com/documentation に掲載されています。
6520334	SSH が使用可能でない場合、鍵を出力するために <code>ssh-keygen -l</code> コマンドを実行すると、次のエラーメッセージが生成される。 <code>sc> ssh-keygen -l -t rsa</code> Fingerprint file can't be opened error 380003 このエラーメッセージは、次のように読み替える必要がある。 <code>ssh is not enabled.</code>	SSH を使用可能にします。
6508432	修正可能なエラー (CE) が大量に発生する場合がある。これらのエラーが修正可能であっても、システムバニックが発生する可能性がある。	問題を回避するには、 <code>/etc/system</code> に次のエントリを追加します。 <code>set pcie:pcie_aer_ce_mask = 0x2001</code> 4 ページの「 <code>/etc/system</code> ファイルの必須エントリ」を参照してください。

表 1 SPARC Enterprise T2000 サーバの特定の問題 (4 / 4)

CR ID	説明	回避方法
6538717	showfru コマンドが Micron 社の DIMM を Seagate 社の DIMM として報告する。たとえば、次のように報告される。 [LE2]FRU_PROM at MB/CMP0/CH0/R0/D0/SEEPROM /SPD/TimeStamp: MON APR 17 12:00:00 2006 /SPD/Description: DDR2 SDRAM, 1024 MB /SPD/Manufacture Location: /SPD/Vendor: Seagate <--Micron と表示されるべき箇所	現在、回避方法はありません。
6472072	ALOM の Break-D によってパニックダンプを取得すると、次のようなパニックメッセージが表示される。 Unrecoverable hardware error.	ハードウェアエラーは発生していません。このメッセージは無視しても問題ありません。
6500293、 6502078	boot-r の実行後に prtdiag-v コマンドを実行すると、Sun SPARC Enterprise T1000 または T2000 サーバ上のホストバスアダプタが表示されない場合がある。	再構成を行わずにシステムを再起動します。
なし	Sun SPARC Enterprise T1000 または T2000 サーバの ttya (Dsub 9 ピン) に次のデバイスが接続されている場合、Solaris OS をインストールできない。 <ul style="list-style-type: none"> • SH4124T (Dsub 9 ピン) • Cisco Catalyst2960 (RJ45) • SPARC Enterprise T2000 (Dsub 9 ピン) 	ttya (Dsub 9 ピン) に何も接続されていない状態で Solaris OS をインストールします。
なし	SPARC Enterprise T1000 または T2000 サーバの ttya (Dsub 9 ピン) に次のデバイスが接続されている場合、ALOM コンソールにログインできない。 <ul style="list-style-type: none"> • SH4124T (Dsub 9 ピン) • Cisco Catalyst2960 (RJ-45) • SPARC Enterprise T2000 サーバ (Dsub 9 ピン) 	ttya (Dsub 9 ピン) に何も接続されていない状態で ALOM コンソールにログインします。または、ALOM を使用するとき、RJ-45 ケーブルを使用して ALOM に接続します。
6542956	UltraSPARC T1 1.4GHz プロセッサを使用するシステムでは、大きな負荷がかかると showenvironment テーブルの MB/V_VCORE パラメータに不正な警告が表示される場合がある。 これは、適時に結果を提供する showenvironment コマンドで値の平均の算出が実行されないことが原因で発生する。このため、センサーまたは環境の読み取り値がしきい値を超えても、障害が生成されないという状況が発生する場合がある。この状況が発生すると、システムログと showenvironment テーブルが一致しなくなる。	現在、有効な回避方法はありません。

マニュアルの正誤情報

ALOM CMT ガイドでの日付の同期に関する記載内容の誤り

発行済の ALOM CMT ガイドでの `showdate` コマンドの記載内容に誤りがあります。誤っている内容は次のとおりです。

ALOM CMT の日付を表示します。Solaris OS と ALOM CMT の時刻は同期化されますが、ALOM CMT の時刻は現地時刻ではなく協定世界時 (UTC) で表現されます。

正しい内容は次のとおりです。

ALOM CMT の日付を表示します。ALOM CMT の時刻は、現地時刻ではなく協定世界時 (UTC) で表現されます。Solaris OS と ALOM CMT の時刻は同期化されません。

